

## 平成 26 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	専修大学大学院	職名	大学院生	助成金額	300,000 円
氏名	呼日楽巴図 (フルルバト) 印	メール アドレス			
研究課題 (申請書に記入した内容を記入すること。)					
アメリカ英語の会話における他者開始修復のイントネーション					
助成金使用実績の概要 (日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。)					
<p>1 研究概要</p> <p>本研究ではアメリカ英語の会話の中で生じる他者開始修復におけるイントネーションパターンを分析しています。分析するデータとしては、カリフォルニア大学サンタバーバラ校で作成された「アメリカ英語の話し言葉のサンタバーバラコーパス (Santa Barbara Corpus of Spoken American English (SBCSAE))」に収録されている 31 編の自然会話 (約 12 時間 8 分) を扱っています。研究方法としては、1960 年代にアメリカで始まった「会話分析 (conversation analysis)」の方法論と言語学 (音声学) の手法を融合した「相互行為の言語学 (interactional linguistics)」のアプローチを用いています。このアプローチの目的は、実際の自然会話のデータを観察し、会話の参与者たちの観点から分析することで、会話の中に潜んでいる秩序、規則を発見することであります。</p> <p>データ分析において、最初に、コーパスの中から他者開始修復の連鎖を見つけ、データコレクションを作成しました。結果として 276 個の他者開始修復が見つかり、それを他者修復開始技法によっていくつかのカテゴリーに分類しました。その中から、追加疑問文による他者開始修復に焦点を置いて分析しました。このカテゴリーにある 80 個の他者開始修復が生じる連鎖を抜粋して、元のトランスクリプトの表記を会話分析の分野で用いられる表記法に従って書き換えました。データ分析の一部は研究協力者と共に行いました。</p> <p>2015 年 3 月に行われた「会話分析中級以上セミナー」と「会話分析上級者セミナー」に参加することで、会話分析の更なる分析スキルを身につけ、自身の研究をまとめました。研究結果として、追加疑問文による他者開始修復には上昇調と下降調だけではなく、平坦調も用いられることが確認されました。また、上昇調の中にある高上昇調、低上昇調、と微上昇調もそれぞれ異なった文脈で用いられることが明らかになりました。それにより、会話のやりとりにおける他者開始修復のイントネーションパターンと話し手の認識的スタンスとの関係を考察しました。</p> <p>2 助成金使途</p> <p>研究協力者への謝金 (コーパス分析料) : ¥ 50,000 (時給 ¥ 1,000 × 50 時間)</p> <p>ToBI Editor (イントネーション・ラベリングソフト) (CD-ROM 版) : ¥ 11,340 (税込)</p> <p>コーパス分析用ノートパソコン (富士通 LIFEBOOK A574/HX FMVA0500TP) : ¥ 66,800 (税込)</p> <p>プリンタ (キヤノン MAXIFY MB5330) : ¥ 34,303 円 (税込)</p> <p>プリンタインクカートリッジ (キヤノン BCI-326+325/6MP) : ¥ 20,736 (税込) (¥ 5,184 (税込) × 4 セット)</p> <p>USB メモリ (RUF3-PS16G-BK (16GB)) : ¥ 6,716 (¥ 3,358 (税込) × 2)</p> <p>セミナー出張費 (交通費及び参加費) : ¥ 13,150</p> <p>資料費 (書籍) : ¥ 69,235</p> <p>複写費 : ¥ 25,800 (コピー ¥ 2,700 × 4 枚; ¥ 1,000 × 15 枚)</p> <p>消耗品 : ¥ 1,920</p>					
助成金を使用した成果に関する発表 (インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。)					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		
		専修大学文研論集	平成 28 年 9 月 (予定)		